

自転車の魅力伝えたい

サイクル伝道師



第11号



日高市高萩東でサイクルショップを営む江下健太郎さん(37)は、マウンテンバイクのジャパンシリーズなどで活躍する自転車競技の現役選手。二足の草鞋ならぬ「二足のペダル」をフル回転させ、日本のトップクラスの一員として熱戦を繰り広げるとともに「身近なまちの自転車屋さん」として多くの人々に自転車の魅力を伝えていく。30代後半を迎えたが向上心は留まる事を知らず、「恵まれた素質があったわけではないが、努力を続けられることも才能の一つと、自分の可能性を信じて挑戦を続けている。

高校に入学した時、通学用にと父がマウンテンバイクを買ってくれた。「自分の足で漕ぎ出せば、どこへでも行ける。サイクリングが趣味となり、友人と一緒に九州一周に挑戦、大会の魅力に引き込まれていった。高校卒業後、出身地の福岡を離れ、強豪の自転車部がある日本大学へ進学、

ロードレース競技を中心に取り組んだ。周りの部員は高校時代に団体やインターハイで実績を残した選手ばかり。「体力的にも技術的にも素人同然だった。負けたくない一心で厳しいトレーニングを重ね、遂には全国大学対抗自転車競技大会インターカレッジのメンバーとして日本の14、17連覇に貢献、努力の結晶を

競技。考えて、工夫し、努力し続けることが何よりも大切と思っている。トップクラスの實力を維持する「学ぶが、えしけん流の自転車ライフ。より多くの人に自転車の魅力を感じてもらうため、イベント等を通

じて交通ルールやマナーを守った上手な乗り方をアドバイスする。「サイクリングを楽しむ人々には、自転車乗りとしての誇りを持ち、きちんとした装備、ルールとマ

ナーを守って欲しいという思いがある。特に子どもたちには、安全に自転車を楽しくしてもらいたい。自転車の魅力を1人でも多くの人に伝え、健全な自転車文化が根付く事を願っている。

卒業後はプロチームに所属し、ロードレースの日本代表として欧州遠征、世界選手権へ出場経験も。8年前にロードレースから原点のマウンテンバイク競技へ転向、企業のサポーターを受けながらジャパンシリーズなどに参戦している。競技者として培った経験を生かし、マウンテンバイクのインストラクターや自転車整備士、技士のライセンスも取得。自転車の魅力を伝えられる仕事をした

いと、2年前に日高団地に念願のサイクルショップをオープンした。「ママチャリ」から本格スポーツサイクリングまで、販売や修理、相談に気軽に応じている。30代後半となった今も現役選手を続けているのは、

絶え間ない努力の賜物「素質のある若い選手は大勢いるが、努力と経験が必要なの

を伝えていく。

自然の中を力走する江下さん

自然の中を力走する江下さん

走る自転車屋さん 江下健太郎 37歳

江下さんが経営する日高団地のサイクルショップ「じてんしゃPit」。プロや自転車愛好者向けの本格的な競技用自転車やパーツを取り揃える一方、アットホームな雰囲気、近所の人々が自転車の修理に訪れたり、時には小学生たちが休憩所として立ち寄ることも。「地域密着がモットー。子どもたちには、自転車屋のおっちゃんとして親



日高団地にある「じてんしゃPit」

マウンテンバイクジャパンシリーズ



江下さんが挑戦を続けるジャパンシリーズ